

夜は、大人の学校でもありました。



最新の耕運機でお仕事へ(昭和40年ごろ)



青年会のメンバーと優勝カップを前にパチリ(昭和34年)



男の子の代表的な遊び、ぱったうち(メンコ)



運動会に来てくれた父兄(昭和33年ごろ)

地域に活力が満ちていた

このころは、全国的に婦人会や青年会の活動が活発でした。世の中が落ち着いて、力が満ちあふれていたように思います。当時は、自動車どころか自転車さえ買える代物ではありませんでした。私は、地元の婦人会長さんのお宅に下宿させてもらっていましたから、すっかり三岳の住民になっていました。

学校が公民館でもあった

当時の三岳小学校は、校長が公民館の分館長を兼ねていて、我々若い教師は、「青年学級」のお手伝いをしました。夜に開いた教室に、地元の青年たちが30人から40人くらいは集まつたのです。つまり小学校は、社会教育の場、大人の学校としての役割も担っていたのです。当時は宿直がありましたから、

20日も学校にいたことがあります。そこには、毎晩のように若者たちが集まってきたものです。私も27、28と若いときでしたから、青年会のみんなと、バレー、ボルダーハンドボールや卓球、時にはお酒を飲みながら激論を交わしたりしたものです。

明るい開放的な雰囲気

ほかの地域では、青年会活動の参加者がほとんど男ばかりだったのに対し、三岳地域は、女性が男性と同じくらい集まるところでしたね。地域に、明るく開放的な、とても良い雰囲気があったように思います。

ですから、若者の活動の中に自然な形で男女の出会いがあり、結婚したカップルも多かつたようです。私も、数組の結婚披露宴に呼ばれたことがあります。

地域の青年として参加

地域の青年会活動が盛んで、各地で芸能大会やスポーツ大会

などが開かれました。私も地元青年会の一員として、みんなといろんな大会に参加したものです。右上の写真は、芸能大会かスポーツ大会で優勝して、カップをもらつたときのものだと思いまます。写っている場所は、職員室の机ですね。良く覚えていませんが、この後は間違なく酒盛りになつたことでしょう。

学校が地域の中心でした

地域行事のほとんどは、小学校が会場でした。青年会の仲間たちとテントを立てたりして、いろいろなことをやりましたね。今では考えられないことです。学校で酒を飲むなんてことは、しかし、当時の学校は大人の学校であり、地域の交流の中心施設でした。父兄も勢いのある時代でしたから、遠慮の無い交流がありました。

そんな中から、地域づくりの輪が広がり、ふるさとを愛する心が伝えられたのでしょうか。

す。昭和31年から4年間、三岳小学校の教諭として過ごした千葉克一さんから当時のお話を伺うことができましたので、懐かしい写真と共に紹介します。

三岳小学校は、比内公民館「三岳分館」でもあります。子供の学校であるとともに、生涯学習の場であり、地域住民の大事な場所として愛されてきた学校なので

昭和31年度から34年度まで三岳小学校に赴任されました。青年教師として、地域と触れ合った思い出の写真をお借りして、当時のお話を伺いました。



千葉 克一さん
(比内・伊勢町)